

「低放射線リスクとモラルを考える」

-開催趣旨-

放射線による「健康影響」の評価には、好ましくないことが起こる可能性を示す「リスク」という考え方が用いられます。放射線によるリスクは、放射線の量に比例するLNTモデルという考えに基づいて管理されていますが、同じような考え方は様々な有害物質に対する「健康影響」に関するリスクにおいても用いられています。リスクの大きさを知るためには、異なる放射線の量を浴びた多くの人々を対象とした調査を行う、疫学研究が重要な役割を果たしますが、人々の間に存在する放射線以外の隠れた要因や全体から調査対象の人々を選ぶときに偏りが生じて正しい結果が得られないこともあります。したがって、生物に直接放射線を照射するなどして、その影響を調べながら、放射線によりなぜリスクが生じるのかを解明していくような生物学的研究との両面から考えていく必要があります。

一方、放射線のリスクを避けるためにとられる行為そのものが新たな差別を生み出したり精神的な不調につながったり、さまざまなリスクを生じることも起こります。これは放射線のことだけを考えていては見落とされてしまう点で、さまざまな有害要因をその大きさも含めて総合的に考えていく必要があります。

本講座では、世界最高の専門の先生方からご講演をいただき、理解を深める機会といたします。多くの皆様の参加をお待ちしています。

日時 : 2022年**3月27**日(日)13:00~16:30

会場 : オンライン(ZOOM)による開催
申し込みいただいた方に開催URLをお送りします

定員 : 100名

参加申込: <https://www.rsf.or.jp/> よりお申込み願います

問合せ先: e-mail mail@rsf.or.jp

参加費
無料

プログラム

講演Ⅰ 「低レベル電離放射線への暴露による健康影響について」
丹羽太貫先生 (放射線影響研究所理事長)

講演Ⅱ 「リスクと有害性をめぐる倫理」
一ノ瀬正樹先生 (東京大学名誉教授・武蔵野大学教授)

講演Ⅲ 「低レベル放射線被ばくについての考え方
(Reflections on Low-level Radiation Exposure)」
Richard Wakeford先生
(Journal of Radiological Protection編集長)

ディスカッション

座長 : 高橋 浩之 (放射線安全フォーラム理事長)